様式第１０（第９条の２関係）

汚濁負荷量測定手法届出書

年　　月　　日

熊谷市長　宛

氏名又は名称
住所
代表者の氏名
（氏名又は名称及び住所並びに法人にあつてはその代表者の氏名）
電話番号

水質汚濁防止法第１４条第３項の規定により、汚濁負荷量の測定手法について、次のとおり届け出ます。

工場又は事業場の名称		※整理番号	
工場又は事業場の所在地		※受理年月日	
△汚濁負荷量の測定手法	別紙のとおり。	※備　　考	

備考　１　△印の欄の記載については、別紙によることとし、かつ、できる限り、図面、表等を利用すること。
２　※印の欄には、記載しないこと。
３　届出書及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本産業規格Ａ４とすること。

1　事業場概要

事業場全体の排出水の量	通常	m^3／日	最大	m^3／日
特定排出水	通常	m^3／日	最大	m^3／日
非特定排出水	通常	m^3／日	最大	m^3／日
排水系統及び測定場所に関する概要図	別図１			
事業場平面図	別図２	（用水、排水系統、特定排出水の採取場所、（自動計測の場合は、計測器設置場所及び水量計測場所）を書き込むこと。）		

2　汚濁負荷量測定方法概要

採用する測定方法に○印を付けること。（複数選択可）

（１）　化学的酸素要求量

採用	方　法
	水質自動計測器（記録式）
	ｺﾝﾎﾟｼﾞｯﾄｻﾝﾌﾟﾗｰ＋指定計測法（JIS 法）
	指定計測法（JIS 法）
	簡易な計測法

（２）　排水量

採用	方　法
	流量計又は流速計（記録式）
	積算体積計（記録式）
	JIS 法その他同程度の方法
	用水量の計測による方法

（３）　窒素含有量

採用	方　法
	水質自動計測器（記録式）
	ｺﾝﾎﾟｼﾞｯﾄｻﾝﾌﾟﾗｰ＋指定計測法（JIS 法）
	指定計測法（JIS 法）
	簡易な計測法

（４）　りん含有量

採用	方　法
	水質自動計測器（記録式）
	ｺﾝﾎﾟｼﾞｯﾄｻﾝﾌﾟﾗｰ＋指定計測法（JIS 法）
	指定計測法（JIS 法）
	簡易な計測法

その他参考となるべき事項

担当部課及び担当者	電話(　　)　FAX(　　) E-mail(　　)

（県記入欄）

	COD					T-N	T-P
汚濁負荷量算定の差し引き方式採用の有無（有・無）							
計測方法についての特例対象の有無（有・無）	計	COD	TOC	TOD	UV		
自動計測器台数（右表）							

3　特定排出水等の水質計測方法

計測場所 番号	計測方法 （計測器型式等）	計測頻度 （採水時刻）	計測開始日	備　　考 （換算式、分析機関等）
排水量 400m³/日以上で告示別記１(1)によらない場合、その根拠を記入すること。				

注）水質自動計測器を用いる場合は、下記の資料を添付すること。

・選定計測器の仕様（N,P 計については性能基準も含む。）

・計測器の管理方法の概要

（保守点検、校正、清掃、試薬交換、廃液処理及び純水器保守点検等）

・その他参考となるべき資料（機器選定及び換算式の根拠等）

4　特定排出水等の量の計測方法

計測場所 番号	計測方法 （計測器型式等）	計測頻度 （計測時刻）	計測開始日	備　　考 （換算式、記録計の有無等）
排水量 400m³/日以上で告示別記１(1)又は(2)によらない場合、その根拠を記入すること。				

注）流量計又は流速計（記録式）又は、積算体積法（記録式）を用いる場合は、下記の資料を添付すること。

・選定計測器の仕様

・その他参考となるべき資料

5　汚濁負荷量の算定方法

項目	汚濁負荷量の算定式 （計測場所番号を用いた式で表す）	汚濁負荷量の算定方法 （以下のいずれかに〇印をつけること）
化学的酸素要求量		１．時間平均水質×時間積算水量 ２．瞬時計測の水質×時間積算水量 ３．瞬時計測の水質×瞬時計測の水量 ４．その他（具体的に記入）
窒素含有量		１．瞬時計測の水質×時間積算水量 ２．瞬時計測の水質×瞬時計測の水量 ３．その他（具体的に記入）
りん含有量		１．瞬時計測の水質×時間積算水量 ２．瞬時計測の水質×瞬時計測の水量 ３．その他（具体的に記入）

別図１

排水系統及び測定場所に関する概要図

計測場所凡例（下記の番号を用いて記入すること。）

項目	項目詳細	記入用番号	備考
水質	COD	C_1,C_2,C_3・・・	
	T-N	N_1,N_2,N_3・・・	
	T-P	P_1,P_2,P_3・・・	
水量	排出水	Q_1,Q_2,Q_3・・・	
	用水	M_1,M_2,M_3・・・	用水量の計測方法による場合のみ記入